

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	ことば音楽療法教室みそら(児童発達支援)		
○保護者評価実施期間	7年 11月 5日		7年 11月 18日
○保護者評価有効回答数	(対象者数) 39人	(回答者数)	38人
○従業者評価実施期間	7年 10月 14日		7年 10月 21日
○従業者評価有効回答数	(対象者数) 16人	(回答者数)	16人
○事業者向け自己評価表作成日	8年 1月 1日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	ことば音楽療法を主に行う事業所であり、言葉の悩みや音楽への興味・関心に応じた支援ができ、音楽の楽しさを通して意欲や自己表現を引き出す支援にとりくむことができる。	座ることだけが目的ではなく学習の基礎である身体アプローチを行うようにしている。楽器で演奏することは手の操作法、粗大運動、力のコントロールなど楽しんで取り組めるようにしている。また、言葉かけや音楽のリズムにあわせたコミュニケーションを大切にしている。	まだ幼い就学前の利用者なので、今後も「やらされている」ではなく「楽しく参加できる」と感じられるよう、遊び要素を取り入れながらでアプローチの幅を広げていけるようにする。
2	個別療育の為子どもの発達段階にあわせた1人1人の支援が行える。	決められたプログラムではなく「今」にあわせたアプローチができる。それらは、子どもの発達段階や特性にあわせたきめ細やかな支援に繋がる。一人ひとりが自分のペースで取り組めることで安心感を持ち、成功体験を積み重ねながら自信をつけることができる。	利用者の「今」にあわせたプログラムが瞬時にできるよう、支援員の引き出しをたくさんもつようにしている。
	保護者の方と一緒に来て頂いているので、日常的なコミュニケーションがとりやすい。支援の様子も見て頂くことで、安心感を持って頂き家庭支援にもつながりやすい。	利用者へ療育をする支援員と保護者対応を行う支援員の両方を配置することで、いつでも相談にのれる機会を設けて子どもの成長や変化を共有している。 お話を通して、意見を聞き取り、支援の改善などにも反映するよう努めている。	保護者の話をしっかりと傾聴し、必要な時には簡単な療育的なアドバイスや家庭でできる活動の提案ができるように、支援員が勉強を行うようにする。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	40分の個別療育なので、長時間の療育ができない。	短時間でも効果的な支援が行えるよう、活動内容を絞り、集中して取り組める環境作りをする。 また必要な場合は支援員が複数対応することができる。	長期休みを利用して小集団のイベント企画を行うようにしている。
2	送迎がない。	土日、祝日を開所することでお仕事がお休みの日に来て頂けるようにしている。	どの曜日に利用して頂いても安心して来て頂けるように支援員の研修を行うようにしている。
3	生活習慣(着替え、食事など)の支援がむずかしい。	来所されてからの手洗いや上着の着脱、などの支援に努める。	視覚カードを提示するなどの支援を行う。